
せっかくトリップしたのに

akito

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

せつかくトリップしたのに

【Zコード】

Z29010

【作者名】

akito

【あらすじ】

わたしは元異世界人。事情あってここ日本に転生トリップしました。いやー、いいところです、ジャパン。ここで第2の人生を謳歌していたのに・・・。

サイトからの転載作品です。

わたしは国籍日本、×市に生まれて育つた、純ジャパニーズな
関西女子。

容姿も黒田黒髪、凹凸の少ないのつぺりな顔プラスボディ。

平安時代に生まれてれば美人ともてはやされてただろうけれど、
あいにくと平成の世では平々凡々。

「うそ、いいのよ、これで。

平々凡々、素敵な言葉。

実はわたし、異世界、アーストランゼン（長いので以下
略）

国的第一皇女クラディス・メイ・アーストランゼン（国名です、
当然長いので略）

そこから地球、日本といつ国に異世界トリップしてきた、異世界人
です、元は。

わたしの元いた世界は魔法ありの、じじでじじのファンタジ
ー世界。

もちろん、アースト（シリコン）ようだけど以下略（国では、
このジャパニーズです、つていう形容ではなかつた。

金髪に碧眼、日本でいうところの欧米人つて感じだつた。

この日本にトリップしちやつたのは転移魔法が失敗したみたいだか
ら。

（転移魔法 자체かけたつもりなかつたんだけど。）

気が付いた時には、この日本という国に赤ん坊としてトリップして
いた。

俗にいう、転生トリップとこうやつかな？

異世界の記憶も、しつかりわたしの中に残つていた。

その分、普通の子として振舞うのが大変だつたけど、平々凡々の容
姿つて、田舎しになるみたい。

これまで注目されることなかつたから、異性にも同性にも。

トリップしちやつた理由は、ねちつこに王子から逃れるため。

（たぶん、無意識の転移だつたし。）

そいつは、大国（アーストなんぢゅうこくよつしょくこく）よつしょくの名前なので覚えてない、しらさん。略（エヌ）の王子。

たしか側室の2番？ 3番田だつけ？

ああ、思い出したくない。（思こ出しちゃつてるナビ・・・。）

出会いはわたしらしが知らない「う」。

國賓の歓迎会の宴で、わたしを見初めたとかなんとか、

その当時、わたしは6歳だつたそつで、王子は18歳だつたとか。

口リ属性、確定。

ははは、そんなん知つたこちやないんやけど。

この王子を。

国に帰つた後、わざわざわたし宛に、花せり服せりト着せりを贈りつけてきた。

小さい時は贈り物、うれしかつたのだけれど、フロフロのレースの付いた下着は引いた。

でも、大国の王子だから天然すぎて、女性の贈り物にズレた感覚持つてるのかなと思つていただけれど。

そのうち、王子の国で、国政の不正とか、王族謀殺の策略とかが次々と発覚して、

王位継承に有力な王子たちは次々と廃されて、

いつのまにやらその下着王子が王太子になつていた。

そして国政の不正の黒幕はア国だと、ア国言い分も聞かず開戦をちらつかせてきた。

あげくにそれを回避するために、妃候補という名の人質を差し出せと迫つた。

その妃候補の名にあげたのがわたしだった。

わたしは父上、王の意向に従つた。

わたしだつて王女だし、自分の立場は分かつてゐるつもり。

政略結婚する覚悟はそれなりにあつた。

だから、ちゃんと受け入れたでしょ？

下着贈りつけてきた気持ち悪い王子と思いたがりも。

肃々と婚礼に向けての準備に文句も言わずにしていたでしょ？

ぱっと見、王子の見た目は悪くないとは思ひ。

長身、茶髪、琥珀色の瞳。

やつぱり大国の王太子、エレガントに洗練された物腰。

でも、でも、わたしに向けたあの笑顔。

目だけ笑つてない。

うそとくせ。

あの顔で下着贈つてきたんだ。

わたしの不振がる態度に気が付いたのか、それとも気を抜いたのか。

この王子、これまでのでき」とを搔い摘んで話だした。

有力な王子たちが廃されていったのは王子の策略。

「自分が黒幕です」と、あつさつ白状しやがった。

理由は・・・わたしを是が非でも娶りたかったから。

そのためにも、王太子に立つて、発言力を強くしたかつたからって。

その向上心、根性、策略練る頭脳、すごいね、ほれぼれするね。

わたしを妃として得るために、ここまでがんばれるなんて・・・、

わたし愛されてるわ（ハート）、

なんて思いません！

執着、執念通り越して怨念すら感じじる。

どうこう頭の中身してるんだらう。

どうどうどうどう。

こわい、怖すぎる。

ああ、こいつがわたしの夫になるのね。

嫌、嫌、いや。

触れられたくない。

でも、でも。

ア国のために、民のために、がまんよ。

我慢、我慢……。

自分自身に言い聞かせてたけれど、こぞ初夜を迎えると、寝室にいたはずなのにみるみるしぐれに景色が歪んでいく。

気が付いたら、日本。

赤ん坊サイズに縮んでベッドの上にいた。

（産院のベッドに寝かされていた。）

どうせ無意識に転移の魔法を自分にかけてしまっていたみたい。

城内だから結界の魔法も張り巡らされていたので、反発した魔法の作用だと思つ、

転生トリップしちゃつたのは。

それから縁川奈々子（日本の父母が付けてくれた名前）としての生活。

もちろん、日本国民となつた今のわたしに魔力はないし、当然魔法は使えない。

平々凡々、小市民Aの暮らし。

ドレスも宝石も寝も、身の回りのお金話をしてくれた侍女何もないけれど、

（身の回りのことは全部自分でしなきゃだけど）、とても居心地いい。

小さな幸せつとしてこのをこつのね。

言葉遣にも気にしなくていいし。

関西弁ついで、ええもんやで？

トレーディングカードに漫画。

豊の上でじりんとなつてポテトをかじつても、何も言われない世界。

勉強は今のおかあさんも「しなさい。」って言われるけれど、

王女時代を思えば、全然問題ナッシング。

そして政略結婚しなくていいし、自由恋愛万歳。

（ただし、相手はまだ現れない。）

ア国の父上たかや郎には申し訳なこと思つたれど、

ほんといつて来てよかつたと、しみじみ思つていた。

なのに。

なのに。。。

「・・・やつ離しません。」

田の前でわたしの体をがつしつ回腕で抱え込んでくるのは英語の教師。

わたしは英語教師の腕の中で足掻いてみるもののびくともしない。
授業のことと話したことがあるからと準備室に呼び出されて来て
みれば、

あいつこいつ聞いておつれま。

いつたこ、ビウヒーいつなつたのか。

「・・・あなたはわたしの唯一の妃です、クラディア。」

なんと?!

わたしをア国での如前で呼ぶこつけ、まさか……！

背中がざわりと総毛立つ。

「もしかして、一ールセン殿下？ なんで、ここおるねん！」

「転生トリップしたのはあなただけではありますよ、クラディス。

・・・どんなにあなたを探したことか・・・。」

うわーーー、嘘やうひー。

思い出したくもなかつたのに現れちやつたのね、この下着王子。

わたしが転生トリップした後、この一ールセン王子

（今は30すぎの独身英語教師、

そして彼もジャパニーズ特有、黒目黒髪、のっぺり平安朝瓜実の容貌（）は、

わたしの後を追つて自分に魔法をかけたとさ。

長つたらじこお前の大国での王族としての生活を捨てて、この日本

に転生トロップする魔法を。

わたしがかかった魔法と違つて行き当たりばったりではなく計画的。わたしのいる時、世界と違えることのないに魔法の軌跡をたどり、

空間、時間軸を正確に図った上で（それだけに数十年かかったとか）

国政に憂いのない遠縁の親族を王位につけ

（王になつた時は婚姻もせず側室も持たずだったそう）

魔法をかけたんだ。

わたしを抱く腕を緩めることなくこれまでの経緯を切々と語る英語教師。

うわー、すいですね、それだけ思つてくれてありがと、

ではありますん！ いわつ！

これで、異世界渡りの、the ストーカー。

「・・・震えていますね、大丈夫ですよ。わたしがずっといますか

ひいいいい。

なーにが大丈夫やねん?

ずっとおるからあかんねん!

耳元で猫撫で声はやめてください!

わたしが嫌がつてゐるわかるやうに。

「・・・殿下、いや、先生。

わたし、あの時と違つて、平々凡々、平安顔だし、

そんな追いかけられるほどの美人じゃないし、むしろその反対、残念顔でしょ?

ね、生まれ変わったんだから、お互い過去を忘れて、違う人生楽しもつよ?」

「何をおっしゃる、わたしの気持ちを知つていてるくせに。

ああ、照れてる、じらしプレイですね、かわいい人だ。

元のお顔もですが、今の平安顔もまたいいものですよ。

まさしくアジアン、クールビューティ大歓迎。

何よりも実年齢よりも幼く感じます。・。・。それを。」

もう、やめてくれええええ。

背徳感もあつてたまらない、つて、

聞きたくない、その発言。

ああ
そひた
た

王子はアドリガリ
ロリ属性
変態たてなんたてけ

転生してもそれに戻れぬす。。。

「それよ二世」

王子 もとし先生が低い声で囁く

「・・・続きを読む? お預けになつてた新婚初夜の。優しくしますから。」

魔法で逃げられないとはないのですものね、この世界は魔法のない所ですし。

誰か夢だと呟つて・・・。

こんな転生トリップなぞいらん！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2901o/>

せっかくトリップしたのに

2011年5月27日20時26分発行